

サーサナ

第66号 仏暦2567（西暦2024）年12月20日

豊かさと貧しさ

貧しい者とは、ほとんど何も持っていない人間のことでなく、
もっと多くを渴望する人間のことで。

（ルキウス・アンナエウス・セネカ）

セネカは古代ローマの政治家・哲学者・作家で、数多くの作品が伝えられています。若い頃、暴君として悪名高いネロの少年時代の家庭教師をしていて、ネロが皇帝に即位すると、初期の頃はネロの善政を支え、有能な政治家として活躍しました。しかしその後、皇帝ネロはセネカからの助言を退けて暴政をし、周りの者を次々に処刑していきます。かつての師であったセネカも例外ではありませんでした。自殺を命じられて、妻とともに風呂場で静脈を切って自殺しました。

セネカの生活は初めの頃かなり贅沢だったようで、周囲からの批判も浴びます。それに対してセネカは次のように答えます。「富は賢者にとって望ましいものではあるが、なくてはならないものではない。富を制御することのできないのは弱心者である。しかし賢者は快適に富を獲得し、享樂すると同様にいつでもそれを放棄する心がまえがある。貪欲は彼の中に座を占めず、貧困は彼にとって恐怖ではない。いやむしろ安心である。」

ネロとの関係が悪化してからは、政治の一線を退き、もっぱら文筆業にいそしむかたわら、簡素な生活を送るようになります。セネカは、禁欲主義とも訳されるストア派の哲学者でもありました。かつての富豪が禁欲主義とはおかしように思われるかもしれませんが、セネカは自分から富を追求したわけではなく、その立場上おのずと豊かになっただけで、富を失っても平然としていることができました。

セネカにとっては、富はあるにこしたことはないけれども、なければいけないでもない、ということなのです。かつて日本では「清貧の思想」がもてはやされたことがあります。生活を極度に簡素にし、世捨て人のように生きることによって心の豊かさ・自由を得ようというものです。高度経済成長期の拝金主義的な日本人の生き方に対するカウンターパンチとして、一定の役割を果たしたのかもしれませんが、ただし、清貧を強調することは、逆のこだわりを生みかねません。

仏教では古くから「小欲知足」ということが言われてきました。出家者は無一物ですが、だからといって在家者にも清貧が奨励されたわけではありません。むしろ「ほどほどの財をなす」ことも徳の一つとされています。日本でも近江商人といわれる人々があり、現在日本の名だたる大企業の多くは近江商人の伝統を引き継いでいます（伊藤忠、丸紅、住友、西武、トヨタ、武田薬品、日本生命など）。近江商人のモットーは「三方よし」（売り手・買い手の双方が満足し、かつ社会貢献すること）ですが、この考えのもとになったのが仏教、なかんずく真宗の教えでした。近江商人の多くは真宗の篤信者でもあったのです。初期仏教の時代にも、在家信者の中には多くの富豪がいました。

問題は、豊かなのがよいか貧乏がよいか、ということではありません。そうではなくて、次から次へと新しいもの、より高級なものを欲しがり、決して満足しない、そういうありかたです。これを「渴望」といいます。喉が渇いて海水でさえ飲んでしまう、そのためにますます渇く、という喩えのように、渴望が悪循環していくこと、これが問題です。そしてそれは個人のことだけでなく、社会全体をおおっている風潮でもあります。

「世界一貧しい大統領」との異名をとるホセ・ムヒカ（ウルグアイ第40代大統領、2010-2015在任）が、2012年のリオ会議（地球サミット）で行なった名演説は今に語り継がれています。その中で、先のセネカの言を引用しつつ、「無限の消費と発展を求める社会は、人々を、地球を疲弊させる。発展は幸福のためになさなければならない。」と述べています。

豊かであること自体は悪いことではありません。ウルグアイは豊かな国です。国土の8割は農地や牧草地であり、人口は300万人。国民一人当たりのGDPは世界平均の1.5倍。その国の大統領としては破格に質素な生活を送っていることでも名を馳せました。誰もがホセ・ムヒカのようになれるわけではありませんが、その忠告には耳を傾ける必要があります。「無限の消費と発展」を止め、ほどほどにすることです。それが「中道」でもあります。

法要行事について

各法要・行事に必要な勤行本は、お持ちでない場合は当寺より進呈または貸与いたします。念珠は必ずご持参ください。また肩衣の着用を推奨します。



一月 修正会（しゅしょうえ）

修正会とは、新年を祝い、また求道の決意を新たにするための法要です。家族揃って、初詣を兼ねて本堂にご参拝ください。

- ❖日 時 1月1日（水）午前10時～11時【午前9時半から受付】
- ❖内 容 勤行（嘆仏偈・和訳正信偈）、年頭法話
- ❖持ち物 『和訳正信偈』『真宗大谷派勤行集』
- ❖記念品 鏡餅

三月 涅槃会（ねはんえ）

兼 年間物故者追弔会

兼 春彼岸会

涅槃会とは、釈尊の入滅（入涅槃＝完全なる安らぎである死を迎えられたこと）を記念する法要です。本法要にあわせて、2024年の間に亡くなられた当寺御門徒を追弔いたします。また兼ねて春彼岸法要ともなります。

- ❖日 時 3月21日（金）午後2時～4時【午後1時半より受付】
- ❖内 容 年間物故者追弔のことば
勤行（和文仏教聖典読誦、正信偈同朋奉讃）
住職法話
- ❖持ち物 『和文仏教聖典』、『正信偈同朋奉讃』（または『真宗大谷派勤行集』）

四月 花祭りコンサート

恒例の花祭りコンサートは今年で11回目を迎えます。

昨年同様、久野薫さんと小島千加子さんをお迎えし、デュオコンサートを楽しみながら、釈尊生誕をお祝いしたいと思います。甘茶の用意もありますので、ご自由にお召し上がりください。

日時については調整中です。次号のサーサナでお伝えしますが、四月はじめての土曜日または日曜日のいずれかになる予定です。

年忌法要

来年（2025年）は没年が下記に相当する方の年忌になります。

1 周忌	2024年（令和6年）	< 27 回忌 >	1999年（平成11年）
3 回忌	2023年（令和5年）	33 回忌	1993年（平成5年）
7 回忌	2019年（令和元年）	< 37 回忌 >	1989年（平成元年）
13 回忌	2013年（平成25年）	50 回忌	1976年（昭和51年）
17 回忌	2009年（平成21年）	< 70 回忌 >	1956年（昭和31年）
< 23 回忌 >	2003年（平成15年）	100 回忌	1926年（昭和元年）
25 回忌	2001年（平成13年）		

大谷派儀式条例に定める年忌は、1・3・7・13・17・25・33・50・100、およびそれ以後100年毎、となります。しかし地域によっては < >内やそれ以外の年忌法要を勤める場合があります。

- ❖ 御自宅で開催の場合、駐車場の確保をお願いします。
- ❖ 僧侶が袈裟衣を着替えるための部屋を用意して下さい。
- ❖ 勤行本（正信偈同朋奉讃）を人数分用意してください。足りない場合は当寺に必要部数をお伝え下さい。
- ❖ 開催の前日までに、仏具のおみがき、お内仏の清掃をしましょう。
- ❖ 教心寺本堂で開催の場合、使用料として15,000万円をお願いしています。

会費の納入について

会費の期限切れの方は、更新をお願いします。皆様の納入年度は封筒宛名シール下部に記されています。1年で1000円ですが、事務軽減のため、複数年を納入していただくとたすかります。

郵便振替00880-4-68473「教心寺」、または現金手渡しで。

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弍（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
